

報告書

出張日程

年月日	出張先	用務
自 令和6年10月29日 至 令和6年10月31日	東京都 狛江市 群馬県 高崎市	令和6年度文教産業常任委員会 行政視察

令和6年11月5日

報告者

職氏名 川南町議会議員

河野 禎明 

報告事項 (1. 経過 2. 感想並びに意見)

- 1 経過
- 1日目 (地域未来塾について) 29日 14.30~16.00 狛江市教育課
- 2日目 (営農型太陽光発電の正しい取り組み) 30日 14.00~16.00 高崎市
ファームドワ
- 30日 (荒廃農地解消に向けた取り組み、儲かる農業の取り組み)
- 31日 9.00~10.30 高崎市農政部 農村課

2 感想並びに意見

狛江第5小学校の地域未来塾の仕組み

毎週水曜日の授業後、45分間地域コーディネーターが子供たちの授業のわからないところを主体に優しい指導をしています。大学生も時々指導に来てくれるので、お兄ちゃん的な親しみで指導を受けています。4年生を主体としています授業は算数が主体です。最初はなかなか勉強に取り組めない子供もいましたが、良いところを褒めたり、優しい指導で、子供たちが学校の宿題を先に自分で済ませたりして学校とはまた違った授業風景になっています。中には性格的に余裕が持てなくて、授業に集中できない子供がいましたが、コーディネーターが辛抱強く、焦らない指導をしたことで、全く別人のように勉強に取り組むように変わった子がいます4年生と言う時期が非常に大事な時期で授業でわからないことをそのまま済ますのではなく、コーディネーター大学生が、親切に教えることで5年生になった時はほとんど自習になりますが問題なく取り組んでいます、コーディネーター大学生らには時給1000円以上が払われて

いました、生徒の参加数は、平均して20名位です、4年生で勉強の楽しさを発見できたら、この取り組みは非常に価値があると思います

1. 営農型太陽光発電の正しい取り組み。

1. 高崎市の郊外にある農場ではビニールハウスを鉄骨やアルミの骨組みで作り、屋根の部分の南側はソーラーパネルを載せていました。ソーラーパネルも普通のパネルでなく太陽光を30%から40%取り入れるように隙間が作ってありました。この発電した電気をハウスの中に使うのかと思っていましたが、発電したのは全部売電に回していました。ハウスの中では、水耕栽培のレタスとかを10種類以上作っていました直売所を18カ所都市圏で持っているので、生産した野菜は市場に出すのではなく、直売所で販売していました。生産した野菜の直接販売と電気の売電収入が利益を生む画期的な方法で、おそらく日本でもはじめての事業だと思われます。観光農園にも力を入れていて、いちご狩りも96カ所の農場があり、たくさんのお客さん呼び込んでいました関東地方では電気が足らなく、この発電事業が順調でした。九州では電気が余っているので、この事業がそのままうまくいくかと言うのは心配です。発電した電気をハウスの中で使うようにすれば、効率がよくなる可能性があります

荒廃、農地解消、儲かる、農業の取り組み

高崎市は明治から桑畑がたくさんありました。戦後桑畑が利用されなくなり、荒廃農地になってしまいました。高崎市では年々増加する荒廃農地を解消するため、荒廃、農地等を再生活用し、規模の拡大を目指す農業者のための市

単独事業の補助金を創設しました。桑の木等の樹木の伐採らの補助金は1アールあたり23,000円、草のみの場合1アールあたり17,000円の補助金が用意されています。

荒廃、農地等の再整備や農業生産に必要とされる施設設備機械の導入にかかる経費に補助金が用意されています。上限金額が250万円補助率は3分の2です。

果樹園の開発については、特別な補助金が用意されていました

高崎市では、ブランド商品開発に力を入れており、農園のブランド化に取り組みたい、お客様の目を引くようなパッケージデザインを作りたい、新たな商品の開発をしたいらの希望者を募り事業費の5分の4補助上限額200万円を用意しています

高崎市、6次産業化等推進事業では、加工施設を建設し加工品の製造に取り組みたい機械を導入して新たな商品を開発販売したい。6次に取り組み農園のブランド力を高めたい目標のある農業従事者に対して補助金を用意し補助上限額は1千万円で、

荒廃、農地解消、儲かる、農業の取り組みの支援策としては、申し分のない内容であります

報 告 書

出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 令和6年10月29日 至 令和6年10月31日	東京都狛江市役所 群馬県高崎市 ファームドゥグルー プ中里農場施設 群馬県高崎市役所	地域未来塾の取組について 中里農場ソーラーファーム視察 遊休耕作地対策他について

令和 6 年 11 月 1 日

報 告 者

職氏名 川南町議会議員

中瀬 修



報告事項 (1. 経過、2. 感想並びに意見)

1 経過

10月29日 (1日目)

6:00 川南町役場出発 羽田着 (10:40)

14:30 狛江市役所 (座学にて研修)

出席者: 狛江市地域学校協働推進事業統括コーディネーター

コーディネーター : 吉田 和夫 氏

コーディネーター : スドウ氏、カノ氏

16:00 狛江市議会会議場見学

16:20 終了

18:00 ホテル着

10月30日 (2日目)

9:00 ホテル出発

11:30 高崎駅着

14:30 中里農場視察

15:30 座学

ファームドゥグループ 代表 岩井雅之氏

ファームランド（株）再エネ事業部課長 中山隼一氏

同 再エネ事業部担当 近藤柚香氏

16:30 視察見学終了

17:30 ホテル着

10月31日（3日目）

8:10 出発

8:40 高崎市役所着

9:00 座学研修

農政部農林課課長 吉岡雄一郎氏

同課長補佐兼農政担当係長 松本 崇氏

同農政部農林課農政担当係長 小笠原貴志氏

高崎市議会副議長 新保克佳氏

10:45 高崎市議会議場見学 終了

17:40 羽田発宮崎行き

19:30 宮崎空港着

20:50 川南町役場着 解散

2 感想並びに意見

今年度の文教産業常任委員会の行政視察は、東京都狛江市と群馬県高崎市で行った。

参加者は、文教産業常任委員長以下4名、議会事務局1名の計6名だった。

まず、1日目の狛江市での視察は、狛江市議会の委員会室にて行われた。会に先立ち、狛江市議会議長谷田部様より、歓迎のご挨拶を頂いた。全国で2番目に小さな市、人口密度も全国で4番目に高い市、平坦な街、自転車の活用が便利、福島県矢吹町との繋がりを持っていることで、川南町との親近感も感じておられるようであった。

早速、座学にて地域未来塾の取組についての説明を受けた。

狛江市は、令和2年度に地域学校協働活動、令和4年度よりコミュニティ・スクールを正式に導入していた。市内に10か所ある小中学校には、地域コーディネーターが在籍し、学校との連携を図っている。今回は、狛江第5小学校の取組が報告された。

狛江第5小ゾーンでは、地域未来塾として「放課後学習室」を毎週水曜日の放課後に45分間実施している。放課後学習室では、4年生を対象とし、基本的に算数の不安を解消することを目標に起きながら、算数以外の勉強も認めるというやわらかいスタイルで行われている。地域未来塾は、「学校の授業終了後又は休業日において学校、社会教育施設等で行う学習、その他の活動」と位置づけられた学習支援事業である。学校現場での子ども一人一人に寄り添った教育（個別最適化）を考えることが必須となる中で、授業の内容について、どうしても理解度に差がでる事実をいかに埋めていくかが課題として持ち上がり、各学校運営協議会でも必ず話題となっていたようである。

令和5年度狛江第5小学校の「放課後教室」令和5年度の子どもの参加数は、延べ

528名。23回開催された中で、平均で1回に約23名の子ども達が参加していた。成城大学との連携を図り、有償ボランティアの一員として大学生を活用し小学生にとって頼れる存在になっているようだ。地域コーディネーター並びに有償ボランティアの予算は、一般財源にて充当されている。保護者の声からは、ネガティブな意見は聞かれなそうである。この事業の取組をしっかりと理解することで、相互に於いていい関係が構築されているとのことであった。意見としては、「来年もやってほしい！」と4年生の保護者からの声があり、令和7年度からは、6年生までの3学年を対象とする事業拡大を実施するとのこと。同時にボランティアスタッフの拡充も必要になるとのことであった。

学力向上を目的とする取り組みではないが、「算数」に特化することで子ども達が、回を重ねるごとに、苦手意識の克服と算数の問題を解くことができるようになり、小さな成功体験が子ども達のやる気を引き上げてくれる場になっていると感じた。一つのきっかけとして学ぶことの大切さや楽しさを得ることで学習意欲が高まり、苦手な算数を克服する子ども達が増えていくように感じた。

次に、2日目の群馬県高崎市のファームドゥグループの中里農場を視察した。ここは、営農型ハウス栽培を事業とし、「生産・流通・加工・販売」で農業の6次産業化を構築している。生産品の付加価値を高め、「食の駅」と「地産マルシェ」の2つの業態で、東京など都市圏に流通システムを築いている。営農型発電として、太陽光を独自に開発したパネルの下でイチゴ、トマト、レタス等を栽培していた。レタスは水耕栽培。イチゴやレタスは、作業を行う人にやさしい腰高の位置に棚があり、イチゴは観光農園として利用されるお客様目線の気遣いが強く表れていた。他にもコーヒーや南国フルーツ栽培にも取り組み、多様性を強く感じた。さらに全国のこだわりを持つ農業者と提携し、季節や品揃えの問題を解決するためにDXを活用した供給ネットワークを創出している。ファームドゥの経営理念は「農業を支援し農家の所得向上に貢献する」であった。農家の所得を向上させるための考えは、若者が新規で農業に携わりやすくなるきっかけとなるだろうと感じた。近年、社会がめまぐるしく変化する今を、ビジネスチャンスとして捉え、挑戦されている話はとても魅力を感じた。人と地球環境に貢献しながら、安心して豊かな生活環境を創造する農業のカタチは、働く人の意欲も向上させるものであると感じた。ファームランドという農業版ディズニーランドを計画している話もとても引き込まれた。ファームグループの岩井代表は、若者に夢のある新しい農業経営のカタチを創造する取り組みを進めている。夢のサイクルの考え方が、国内に留まらずモンゴルやチリ、アフリカなど海外でも事業を展開されており、人と地球にも優しく、更に生活の格差を減らすなど社会に貢献しておられた。農業でも課題に挙げられている温室効果ガスの削減に取り組む事業として世界から注目されていた。これからの時代、絶対に切り離せない物は「電気」だと断言された。太陽光、風、水の力で電気を生み出し売電する。農業では、決して儲からないが、クリーンエネルギーでがっちり儲ける話は、特に印象に残った。地球の気象変動が大きく農家の所得に影響している現在、ファームドゥグループの取組は、農業の後継者も減る日本農業の救世主の一事業になるだろうと思う。ただ、

残念なことは、九州には不向きであると言われたことが残念だ。人口や企業の割合が、関東の都市圏と比較すると電力の需要が低いことが原因のようである。しかし、川南町にまったく不向きできないと思うので、川南町でも取り組める農業の新しいカタチを創出できることを考えていければと感じた。

最終日は、高崎市役所にて座学研修を行った。荒廃農地解消への取組と儲かる農業に向けての取組について協議した。

荒廃農地については、農地再生推進事業補助金を創設し、荒廃農地等を使って農業の規模を拡大してもらう取り組みを推進させていた。農地再生推進事業補助金とは、田畑や果樹園の規模拡大を目指す農業者を対象に、荒廃農地の解消に要する経費や、再整備や農業生産に必要な施設、設備、機械の導入に係る経費を補助する事業である。令和4年度は、17名、約17ha、令和5年度は、20名、約10.3haと、補助金を設置したことで、農地の再生が大きく行われていた。また、大手企業との連携協定を高崎市と行い、荒廃農地の増加抑制や将来的な雇用の創出を目的として連携協定を締結しているようだ。他企業に於いて、高崎市が進める農地再生推進事業補助金を活用して、荒廃農地を果物農園に整備している。この補助金は、一般財源であった。

荒廃農地への取り組みに関しては、川南町が抱えている問題点とも類似していると感じた。荒廃農地の多くは、Re：活用の農地としては踏み込めない土地が多いのが課題のようであった。

儲かる農業に向けての取組については、農業者の所得の向上に資する施策の推進として、農業者新規創造活動支援事業を平成27年度から取り組んでいた。農業者の所得や雇用の増大、地域活力の向上を図ることを目的に、地域資源を活かした6次産業化やブランド化等を図る総合的な補助制度を創設し活用してもらう取り組みが紹介された。支援内容としては、6次産業化推進事業補助：生産から加工、流通、販売迄取り組む活動費や商工業者との連携した商品開発。例）うずらの卵加工施設整備、桃・いちご・トマト・人参・梅干し・フルーツの加工販売施設整備。ブランド商品開発事業補助：地域に適した新品種や新商品の開発及び普及宣伝活動に係る経費。内容としては、新商品の開発やパッケージ開発（差別化）。製品によっては、いい物をさらに良く見せるために化粧箱を作成し、さくらんぼやジャンボ梨の海外輸出用パッケージ開発への支援が行われていた。

今回、東京都狛江市と群馬県高崎市の2つの自治体と1つの企業の行政視察及び見学を行った。どちらも大変快く受け入れてくださり、短い時間の中で内容の濃い協議が行われたことに大変感謝を申し上げます。多くの学びを得ながら、共に共通する課題を克服するために行った意見交換は、大変有意義な時間であった。

以上、復命します。

報 告 書

出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 令和 6 年 10 月 29 日 至 令和 6 年 10 月 31 日	東京都 狛江市 群馬県 高崎市	令和 6 年度 文教産業常任委員会 行政調査

令和 6 年 11 月 5 日

報 告 者

職氏名 川南町議会議員 田中 宏政



報告事項 (1. 経過、2. 感想並びに意見)

1 経過

1 日目 14 : 30 ~ 16 : 00

狛江市役所にて研修会(説明・質疑)・・・社会教育課・狛江第 5 小学校
地域コーディネーター 2 名・統括コーディネーター

2 日目 14 : 00 ~ 16 : 00

群馬県高崎市 ファームランド(株) 中里農場にて研修会(説明・質疑・施設
見学)・・・岩井社長・省エネ事業部

3 日目 9 : 00 ~ 10 : 30

高崎市役所にて研修会(説明・質疑・施設見学)・・・農政部農林課

2 感想並びに意見

◎狛江市 地域未来塾

狛江市では、令和5年6月中旬に4年生を対象にした放課後学習室がスタート。毎週水曜日の放課後、基本的に算数の学習支援を行っている。教員に負担を増やさず、学校に経費負担をかけず、対面の学習支援。教室と家庭以外の学習場所を提供し、自分で学習の不安や苦手を克服するという取り組みである。また、近隣の大学生が学習指導をし、地域コーディネーターが企画運営をしている。大学生・児童・学校・行政・地域コーディネーターなど、様々な人が連携・協力し、子供たちの未来のため、学力の二極化の解消のための狛江市の取り組みを視察・研修し、大いに勉強になり、参考になった。

◎ファームランド(株)中里農場

ファームランド(株)中里農場では、農業と太陽光発電を組み合わせた営農型太陽光発電所(ソーラーシェアリング)の取り組みを展開しており、ハウスの天井部分に太陽光パネルを設置し、その下で養液栽培のイチゴやレタスなどを栽培。電気と農作物を売るハイブリッド農業は、収益性の高い事業だと感銘を受けた。耕作放棄地の解消、雇用の創出など様々なメリットがあり、今後の農業の可能性やヒントになった。しかし、九州地方では電力需要と供給のバランスにより事業展開は難しいとのことだったが、自家使用や蓄電池使用することにより、今後の可能性は少なからずあると感じた。

◎高崎市農政部農林課

高崎市では、荒廃農地解消のために市単独事業の補助金を創出し、農地再生に取り組んでいる。支援対象の要件はあるが、荒廃農地を活用し規模拡大の後押しになるような取り組みであり、大いに参考になった。また、6次産業化推進にも積極的であり、ハード面・ソフト面合計で1,200万円の補助上限額となっており、失敗してもいい・チャレンジしてほしいという市長の農業推進の本気度を感じ、大いに勉強となった。

報 告 書

出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 令和 6 年 10 月 29 日 至 令和 5 年 10 月 31 日	東京都 狛江市 群馬県 高崎市 群馬県 高崎市	教育行政について(地域未来塾等) 営農型太陽光発電 農業施策について

令和 6 年 11 月 6 日

報 告 者 文教産業常任委員会 職氏名 川南町議会議員 三原明美



報告事項(1. 経過、2. 感想並びに意見)

1 経過

10月29日(火) 14:30~16:00 東京都狛江市役所 (社会教育課)
(1) 教育行政 地域未来塾について

10月30日(水) 14:00~16:00 群馬県高崎市
(1) (有) ファームクラブ(営農型太陽光発電)

10月31日(木) 9:00~10:30 群馬県高崎市
(1) 農業施策について
(荒廃農地解消にむけた取組、儲かる農業の取組)

感想並びに意見

東京都狛江市 地域未来塾について

学校の課題と行政が提供できる手段をつなぎ、放課後学習教室という解決方法をコーディネートする事で始まった地域未来塾
今回視察研修させて頂いた狛江市の狛江第五小学校は、地域・関係者主導系で対面の学習指導が必要な児童が多く、教員の負担を増やさず、学習支援を行う機会が欲しいという事で、行政の声かけで、地域の方が立ち上げ、予算の確保地域の方大学生が登録をして、週に1回だけ基本的に算数。算数の不安をなくすことを目標とし、高学年に進級してもこまらないようにしていく。
宿題をしてもいいし宅習、本を読んでもいい。
まずは、勉強をする姿勢を学ばせる事が大事。
しかし地域コーディネーターの方によると、本当に来て欲しい子供ではなく、ほとんどが頭の良い子供が主。勉強嫌いな子供をどうしたらいいのか？
が課題とのこと。私も地域の方が主体となり、放課後学習や授業中の先生方のサポートが出来るような地域コーディネーターを作るといいと思うが、そう簡単にできる物ではないとつくづく実感。なんと言っても地域のリーダーが必須。親御さんの協力も必須。また予算の確保がとても重要。
私が思っていた公営塾とは少し違っていたが、また違う意味で勉強になった。

感想並びに意見

群馬県高崎市 (有)ファームクラブ (営農型太陽光発電)

「再エネ農業は儲かる仕組み」ということで、(有)ファームクラブさんを視察研修させて頂いた。創業から30年。農家の所得向上と新しい農業のカタチに取り組まれ、現在は農産物直売・農業生産・再エネ発電・海外JCM事業を展開中との事。今回は、太陽光発電を見せて頂いたが、見渡す限りビニールハウスの上に載っている太陽光発電施設。また、太陽光発電の下には農作物。
レタスにイチゴ、コーヒーの木、マンゴーなど。
また、太陽光も他とは違う特殊な物とのこと。出来た野菜は自営の直売所で販売。ファームドゥのシステムは電気も野菜も販売できるという魅力があり、若者を育てる高収益な仕組みのソーラーファーム。
この太陽光は大変儲かるとのこと。やはり都会に近いので電気の需要が大変多い

からだと社長が説明された。しかし、やはり太陽光が上にあることで、日照不足で野菜の成長が遅れることがあるのではないかと思った。

しかしハウスの上に太陽光を載せるとは素晴らしい発想。素晴らしい施設を見ることが出来き、また社長の話しの中に海外進出があり興味深いものがあった。

感想並びに意見

群馬県高崎市 農業施策について

(荒廃農地解消にむけた取組、儲かる農業の取組)

年々増加する荒廃農地を解消するため、荒廃農地等を再生活用し、規模の拡大を目指す農業者のための市単独事業の補助金を創設、それが農地再生推進事業補助金。年度毎の補助事業で一般財源から出ている。

借りても、また貸しても、どちらにしてもこの補助金が設置されたことにより、新たな企業が高崎市に進出してくれる可能性が出てくる。

荒廃農地等の再整備や農業生産に必要とされる施設・整備・機械の導入に係る経費には補助率3分の2 上限25万～250万 条件として25a以上の再生等となっている。

この補助金を設置したことにより、農地再生は進んでいるかと思えば、そうではない。何故なら、また新たな荒廃農地が出来るから。

川南は農業の町。これからますますこの荒廃地問題は大きくなるばかりだろう。

また、儲かる農業にも補助金が出ている。高崎市ブランド商品開発事業補助金。

たとえば、農園のブランド化、パッケージデザイン、新たな商品の開発など。

市長が失敗しても大丈夫、チャレンジが大事と言われているそうだ。素晴らしい。

若者にとってチャレンジ精神が湧いてくるだろう。先ほどの荒廃の補助金といい、このブランド補助金。高崎市長はきっと他にも素晴らしい施策を出されていることだろう。市長のお話も聞きたかった。

)

以上復命いたします。

報 告 書

出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 R6 年 10 月 29 日 至 R6 年 10 月 31 日	東京都狛江市 群馬県高崎市	令和 6 年度文教産業常任委員会 行政調査

令和 6 年 11 月 9 日

報告者 職氏名 徳弘美津子



報告事項 (1. 経過、2. 感想並びに意見)

1. 経過

10/29・・・宮崎空港⇒羽田⇒狛江市研修⇒上野宿泊

10/30・・・上野⇒群馬県高崎市ファームドゥグループ研修⇒高崎市宿泊

10/31・・・高崎市役所研修⇒羽田⇒宮崎空港⇒帰町

1 日目 (10 月 29 日) 東京都狛江市

公営塾を学ぶ・・・地域未来塾

狛江市概要・・・面積 6.39 km²と全国で 2 番目に小さい市。人口 80,417 人、人口密度は全国で 4 番目とのこと。東京新宿から約 20 分で、東京のベッドタウン。

◎ 学力格差をなくすため、地域コーディネーターによる放課後教室を令和 5 年から始めた。

◎ 毎週水曜日放課後に 4 年生から学習支援を大学生を先生にして開催。

◎ 子供も学生達の学びで先生でもない家族でもない大学生との関わりが得られる。

課題

◎大学生のマンパワーが足りず今後の課題となる。

◎保護者からは来年も開催を望む声がある。

◎参加者の負担はなく、コーディネーターや大学生は時給として支払われる。

◎最低賃金にもなるのか？短時間活動としては、今後の課題。

◎学びに来て欲しい子どもが申し込まない。

感 想

熱心な地域コーディネーターがいらっしゃる、今後の持続性を担保するためには、一定

の報酬はあるべきと考える。学びたい子どもの応援をしようとするにはボランティアに近いものでは継続することは難しくなるのでは。

2 日目(10 月 30 日)群馬県高崎市ファームドゥグループ中里農場

ソーラーファームを学ぶ…太陽光発電を利用しハウス一体型農場経営。

◎ファームドゥグループ…創業 1994 年、代表者の岩井雅之が立ち上げ、農業事業・小売り事業・再エネ事業が軸となる。

◎野菜と電気を同時に栽培する営農型発電では日本一との事。

◎高崎中里地区圃場だけで 11ha。県内で 230 発電所。

◎海外はモンゴル、チリ、ケニア、シンガポールとなっている。

◎2024 年売上は推定 150 億円の見込み。税引き前利益は 24 億円見込み。うち電力利益は 19 億 6000 万円。その他食の駅、地産マルシェ、海外事業となる。お話では農業事業の利益はあまりないとのこと。

◎農場は太陽光パネル付の栽培システムで特許を取得している。

◎ハウスのに載せるソーラーはシースルー型パネルと言い、透過率 30%から 40%。ハウス内の野菜栽培時にお日様も当たるし、発電もする。

◎パネルとパネルを離すことでそれを可能にしている。

◎水耕栽培のレタスなど、液肥を使い育成。いちごも高設栽培。

◎時期になると（一月からゴールデンウィーク明けまで）いちご狩りが楽しめる観光農園としても地域に根付いている。時間制限なしで、大人(中学生以上)2,300 円小学生以上 1,500 円で 1 日楽しめる。

◎ 2050 年問題として今後はコーヒー栽培を手がける試験栽培中。

感想

代表の岩井氏のお話を伺えた。自身が立ち上げ視察に伺った周囲は広く太陽光発電ハウスが建ち並び圧巻であった。農業事業は人件費や資材代などで利益は薄いと言われたが、雇用の場、観光農園としての地域貢献している。

太陽光発電事業が利益の多くを締めるが代表に言わせると九州ではそんなに利益は出ないと言われた。(電気の価格が安いから)

これから計画する事業も一大プロジェクトと言われ今後、完成して時もう一度伺いたいものだ。

3 日目(10 月 31 日)群馬県高崎市

高崎市概要

人口…366,547 人

就業人口…第 1 次産業 4,267 人(2.3%)

第 2 次産業 47,283 人(26.2%)

第 3 次産業 123,781 人(68.5%)

分類不備 5,399 人(3%)

合計 180,730 人

農地再生推進事業補助金を学ぶ

◎農業委員会で調査し把握した荒廃農地は 600 ㌔になる。

◎3 年間で 34 ㌔の支援を行った。

◎田・畑の荒廃農地を解消し規模拡大をめざす支援

樹木の荒廃農地 23,000 円、草のみ農地は 17,000 円

◎荒廃農地再整備や農業生産に必要とされる施設・設備・機械の導入支援

補助率 3 分の 2 上限 25 万円～250 万円

◎果樹園の規模拡大 木の伐採や伐根、草の刈払、地下茎の除去、深耕・整地など

補助額 1a あたり 27,500 円～67,500 円

◎これらの開墾を手助けするコントラクター会社は存在しない。

◎これら改良した農地は最低 5 年間は賃貸契約が必要

◎農業者新規創造活動支援事業

1, 農業者の所得や雇用を拡大し地域活力の向上を図る為に地域資源を活かした 6 次産業化や農畜産物のブランド化などを図る総合的な補助金を平成 27 年度に総額 1 億円を予算措置し翌年から 5000 万円拡充し毎年 1 億 5000 万円予算措置している。

2, 補助内容

ハード事業・・・5 分の 4 以内上限 1000 万円ソフト事業 5 分の 4 以内上限 200 万円

3, 実績

平成 27 年 8 件 69,355 千円 平成 28 年 14 件 87,911 千円

平成 29 年 11 件 77,075 千円 平成 30 年 9 件 54,976 千円

令和元年 11 件 97,154 千円 令和 2 年 12 件 78,832 千円

令和 3 年 10 件 72,716 千円 令和 4 年 8 件 79,444 千円

令和 5 年 8 件 79,754 千円

◎農産物広報活動事業補助

1, 新しい食の魅力を創造、発信していく経費を支援

2, 補助額 3,000 千円

◎農畜産物販売研究事業補助

1, 販路拡大のため PR 事業や販路拡大に向けた調査や研究に係る経費を支援

2, 実績

平成 28 年 2 件 7,032 千円 平成 29 年 3 件 19,972 千円

平成 30 年 2 件 8,000 千円 令和元年 2 件 8,000 千円

令和 2 年 0 件 0 円 令和 3 年 2 件 6,000 千円

令和 4 年 1 件 3,000 千円 令和 5 年 1 件 3,000 千円

◎新規就農者支援応援給付金(令和 4 年～)

1, 新規就農 1 人 100 万円

2, 独立就農 1 人 50 万円

3, これまでの就農実績・・・36 名 総額 31,000 千円

◎その他の農業支援として自然災害やコロナに対応した支援を行っている。

感想

人口比 2.3%に第一次産業に対しての支援策も様々に取り組み、首都圏に近い利便性もあり「地産多消」として国内外でより多く消費する事を目的として積極的に加工や販売手腕を支援する施策を学ぶことが出来た。